

社会から求められる人材 ある企業の社員教育より

前号で『いじめ』について皆さんに考えてもらいました。「人を思いやる心」「人の痛みを感じることができる心」「人を励まし、支えようと思う心」「感謝の心」「奉仕の心」は、皆さんの中で成長してきていますか。1年生は一泊移住まで10日、2年生は職場体験学習、3年生は修学旅行まで1ヶ月を切りました。桜宮中学校という集団の一員として、自覚を持った行動を心掛けてください。

あるサービス関係の企業の社員教育について紹介します。皆さん、それぞれの行事に向かい、どうあるべきか、どう行動すべきか、考えてみてください。

第1段階	「はい・にこ・ぱっ」ができるようになる。 「はい」…返事 「にこ」…笑顔 「ぱっ」…ぱっと自分から動く
第2段階	「あ・ひ・る」ができるようになる。 「あ」…あいさつ 「ひ」…人の話を聞く 「る」…ルールを守る
第3段階	「コミュニケーション能力」を身につける。 人の話をしっかりと聞いて、互いの共通点を見つけ出し、話をさらに進めることができる能力
第4段階	「人を許せる人間」になる。 仕事はチームワーク。でも、みんな仲良しで仕事をしなければならないということではない。嫌な人、性格の合わない人もいるが、その人を無視したり、嫌がらせをしたり、仲間はずれにしたりしては、チームワークが乱れ、いい仕事はできない。距離を置いて付き合い、許せる人になれば、仕事は乱れない。

企業では利益を上げていくために、一人ひとりの力量も重要ですが、チームとして行動ができ、相手の気持ちを考えながら仕事ができる人を求めています。学校は、学力だけではなく、社会で生きていくための基礎を学び、身に着けていく場所でもあります。集団の中には、仲の良い人もいれば、気の合わない人もいます。行事ごとだけではなく、日々の学校生活の中で自分の行動を自覚し、学校という社会の中で人との付き合い方を学び、「いじめをしない」「いじめを許さない」「いじめを見逃さない」人へと成長してください。さて、あなたは4段階すべてクリアできていますか。

『いじめについて考える日』 取組第2弾 いじめアンケート

来週、各クラスで生徒対象の「いじめアンケート」（4月～実施日）を実施します。

「『いじめ』とは、一定の人的関係にある他の生徒等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）であって、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものをいう」と定義されています。

学校では、いじめの未然防止について最優先に取り組むとともに、いじめ事案に対して早期発見・早期解決に努めています。アンケート結果に基づき、今後も「いじめのない学校づくり」に取り組んでまいります。

『桜宮中学校地域クリーン活動』 5月13日（日）

今回は学校南西隣の「桜之宮東公園」です。多くの参加を待っています。



第1回学校協議会報告

今年度の第1回学校協議会を5月1日（火）に開催しました。今年度の会長を決定し、桜宮中学校の「運営に関する計画」「校長戦略予算」について審議、決定しました。地域やPTAの代表の方々との意見交換をとおして、より良い学校づくりに向け、さらに取り組んでいきます。「運営に関する計画」の今年度の年度目標（下記）は、昨年度に決定した中期目標（3年計画）の達成に向け、本校の課題を踏まえて作成しました。詳細は、本校のホームページをご覧ください。

学校協議会委員

会長	松下喜代子	様	本校同窓会会長
副会長	栗田	昇一	様 東都島連合振興町会長
副会長	玉川	允敏	様 桜宮連合振興町会長
委員	森	博司	様 本校現PTA会長
委員	見浪	一敏	様 本校元PTA会長
委員	後藤恵似子	様	本校元PTA副会長
委員	木浦	正春	様 学校元気アップコーディネーター

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- 暴力行為を複数行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。
- 「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」の項目について肯定的回答率を前年度より上昇させる。
- 「学校生活を楽しみにしている」の項目について肯定的回答率を80%以上にする。
- 「将来の夢や目標を持っている」の項目について肯定的回答率を80%以上にする。
- 「学校や地域でしっかりあいさつをしている」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学校チャレンジテストにおける正答率が市平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- 中学校チャレンジテストにおける正答率が市平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である持久走の平均の記録を、前年度より向上させる。
- 中学校チャレンジテストの質問紙調査における「授業の内容がよくわかる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 「先生たちは、授業をわかりやすくするために工夫している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

【その他】

- 「朝食を毎日とる習慣が身についている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より向上させる。
- 「体育大会・文化祭などの行事で、わたしが力を発揮し活躍する場がある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より向上させる。